

## 平成29年度 校内研究（現職研修）計画

### 研究テーマ

児童生徒一人一人のコミュニケーション力をはぐくむ授業づくり（3年間）  
～コミュニケーション力の拡がり和社会生活におけるスキル活用をめざした授業づくり～  
(3年次)

#### 1 テーマ設定の理由

##### (1) これまでの研究と課題

昨年度は主テーマの下、「主体的なコミュニケーションスキルの確立と般化をめざした授業づくり」をサブテーマとして研究を推進してきた。これまでの研究の成果等をつなぎ、積み上げる研究を推進してきたことで、それぞれの児童生徒たちは新たなコミュニケーションスキルを獲得し、より大きな集団においてそれらの力を般化することができた。

【☆：成果 ★：課題】

##### ☆ツールの活用

- ・児童生徒の実態におけるアセスメント
- ・課題の焦点化
- ・協働での支援と授業づくり
- ・自分の思いを整理し、伝えようとする意思の形成、自己分析とアイデンティティの構築

##### ☆コミュニケーションスキルの種類の拡大

- ・身振り、手振り、手話、絵（写真カード）、音声、音声言語、言葉の使い方・伝え方、相手の気持ちのくみ取り方、言語理解、AAC・ATなどの活用を通じたスキルの拡大と向上

##### ☆コミュニケーションスキルの活用の拡大

- ・小さな集団からより大きな集団での活用や般化

##### ☆対象児童生徒拡大による集団全体のコミュニケーション力の育成

##### ☆ワールドカフェによる他学部からの考えを活用した支援や研究の推進

##### ★ツールの活用

- ・ツールはアセスメントや授業等において活用されてきたが、それらを用いて細検証をすることやそれらに伴ったツールの再作成など評価と改善に活用されることが少なかった。
- ・検証方法（手法、種類）、ツール等を活用する専門性の向上とそれらを活用した正確な気持ちや行動のくみ取り

##### ★日常生活、社会生活などより大きな場面で生かすことができるコミュニケーションスキルの定着

##### ★話し合いの場面における相互間での気持ちのやりとりと言語能力

##### ★学校と家庭・企業・福祉事業所・放課後等デイ事業所などとの連携、検証と評価の共有

##### ★誰にでも伝わる手段としてのコミュニケーションツールの確立と定着

##### (2) 本年度の研究

「児童生徒一人一人のコミュニケーション力をはぐくむ授業づくり」を主テーマとして、昨年度はそれぞれの児童生徒が培ったコミュニケーションスキルをさらに増やし、それらをより大きな集団の中で発揮するための力の育成を図る研究が行われ、成果を得ることができた。しかし、それらの力が学校などにおける比較的大きな集団の中では般化され、拡げることができたが、家庭生活、放課後等デイ事業所、産業現場等における実習での企業・施設など社会生活において般化することが難しいという課題を残した。

コミュニケーション力は特定の場所・人のみに発揮できればよいわけではなく、児童生徒を取り巻く社会全体において発揮できなければいけない力である。これらのことから、それらの力を身に付けるためには、これまでの研究の成果を生かしつつ、社会と連携・協働をする開かれた学校づくりが求められる。学校で身に付けた力が社会生活で生かされ、般化されているかを教師以外が評価し、新たなPDCAサイクルを社会と共に創りあげることが、さらなるコミュニケーションの拡がりにつながると考える。さらに、それらの支援方法の検討・教育課程のマネジメントは今後の教育に求められ、これからの研究・学校教育を通じてよりよい地域社会を創りあげ、共生

社会の基盤になれるよう研究を進めていきたい。

## 2 研究目標

### (1) 全体目標（3年間）

- これまでの研究の成果と課題を踏まえ、児童生徒（同士）が自発的、主体的にかかわろうとする授業を目指して授業研究と事例研究を推進し、一人一人のコミュニケーション力を高める取り組みを展開していく。
- コミュニケーションの在り方について、授業を具体的に複数の教師で振り返りながら研修を深め、授業研究と事例研究を積み上げることで教師としての専門性と資質の向上をめざす。

### (2) 年度ごとの目標（3年次）

- 児童生徒の実態や課題に応じたグループに分かれ、児童生徒自らが自主性・主体性をもちながら日常生活、社会生活などより大きな場面で生かすことができるコミュニケーションスキルの定着をめざした授業づくり。さらに、学校と家庭・企業・福祉事業所・放課後等デイ事業所などとの連携による評価の共有をめざす。
- これまでの「つなげる」、「つみあげる」研究の成果を継続し、学部を越えた「縦割り」の形で児童生徒の支援情報を共有・研究するなど、教師の協働と専門性・資質の向上をめざす。
- 各グループにおける研究をワールドカフェ等における協議・報告を通して、全教師が所属学部以外の研究についての興味や関心を高め、相互に協調し合えるアクティブラーニングを行うことで、よりよい連携と支援方法を導き出すことをめざす。

#### 研修関連の語句

- コミュニケーション力・・・双方向のやりとり（相手の気持ちを受け入れる、表出するなど）だけではなく児童生徒主導の一方向のかかわりなど、コミュニケーションという意味を幅広くとらえる。「やりたいこと」は、児童生徒一人一人の発達の段階・過程・キャリアに応じて、自分中心の要求から、集団的・社会的なものに成長していく。その成長の過程においても「コミュニケーション力」が重点となる。
- コミュニケーションスキル・・・人と人の中でコミュニケーションをとる方法・手法・テクニックを理論付けし、検証を行い技術または知識としてまとめたもの。
- ツール・・・道具。シート、VTR、プリント等。ここで言うシートとは、項目別観点シート、児童の視点シート、単元観点位置づけシート、KJ法を用いたかかわり方チェックシート、コミュニケーションシート、等
- アセスメント・・・援助活動を行う前に行われる評価。利用者が何を求めているのかを知ることや生活全般のどんな状況から生じているかの確認等があげられる。
- アイデンティティ・・・自分が自信をもっていること、自分自身のよりどころ。
- AAC・・・拡大・代替コミュニケーション。手段にこだわらずその人に残された能力とテクノロジーの力で自分の意思を相手に伝える。  
例 表情やうなずき 手話 シンボル コミュニケーションボード タブレット端末
- AT・・・アシスティブテクノロジー。物理的な操作上の困難や障害に対して、機器を使用することによって支援しようとする考え方。例 補聴器 眼鏡 車いす
- 自己肯定感・・・自己のアイデンティティを確立し、自らの価値や存在意義を肯定できる感情。自分の良いところも悪いところも含めて肯定できる前向きな感情。  
(『内閣府 子ども・若者白書』、『中学校学習指導要領解説 特別活動編』等)

## 3 研究仮説

1のテーマ設定の理由で述べた内容から以下の仮説を立てて研究を推進していく。

児童生徒の実態や課題に応じたグループを編成し、意欲や自信のもとに他人とかかわる経験をより多く積み重ねることで自己肯定感を高めることができるのではないかと。また、それらの授業

を展開する中で児童生徒自らが自主性・主体性をもちながら様々な人とかかわることで、さらなるコミュニケーションスキルの定着と拡大を図り、よりよい「般化」につながると考える。

そのコミュニケーション力が児童生徒を取り巻く社会全体において発揮できているかについて、家庭や企業・福祉事業所・放課後等デイ事業所などと連携し、評価を得る。その評価を基にPDCAサイクルにおいて授業や生活指導に還元することで、さらなるコミュニケーションの確立と拡大につながると考える。

#### 4 研究構想

本校では「児童生徒一人一人の能力と特性に応じた自立の力を身につけ、豊かな心でたくましく生きていく人間を育てる。」ことを教育目標に掲げ、3つの「つ」（つなぐ、つづける、つみあげる）を重視し、児童生徒一人一人のコミュニケーション力の拡がり和社会生活におけるスキル活用をめざした授業づくりをめざす。

##### H29 重点目標

児童生徒一人一人に応じた方法、手立てを工夫してコミュニケーション能力を高める授業を展開し、交流及び共同学習を充実させることで、その成果を生かし、人間関係の形成をめざす。

##### (1) 研究の内容・方法

- ① 実態や課題に応じた学習集団を対象とした複数（10名以下が望ましい。）の指導者で、研究推進グループを編成し、グループごとにテーマとの関連を持たせ、テーマを焦点化した研究を行う。（学部や縦割りでのグループ編成など柔軟なグループ編成）
- ② グループごとにテーマにせまる研究仮説と研究方法、計画を設定する。
- ③ グループごとに授業研究・事例研究を積み重ねる。

○授業研究：代表授業（各グループ1回の実施）

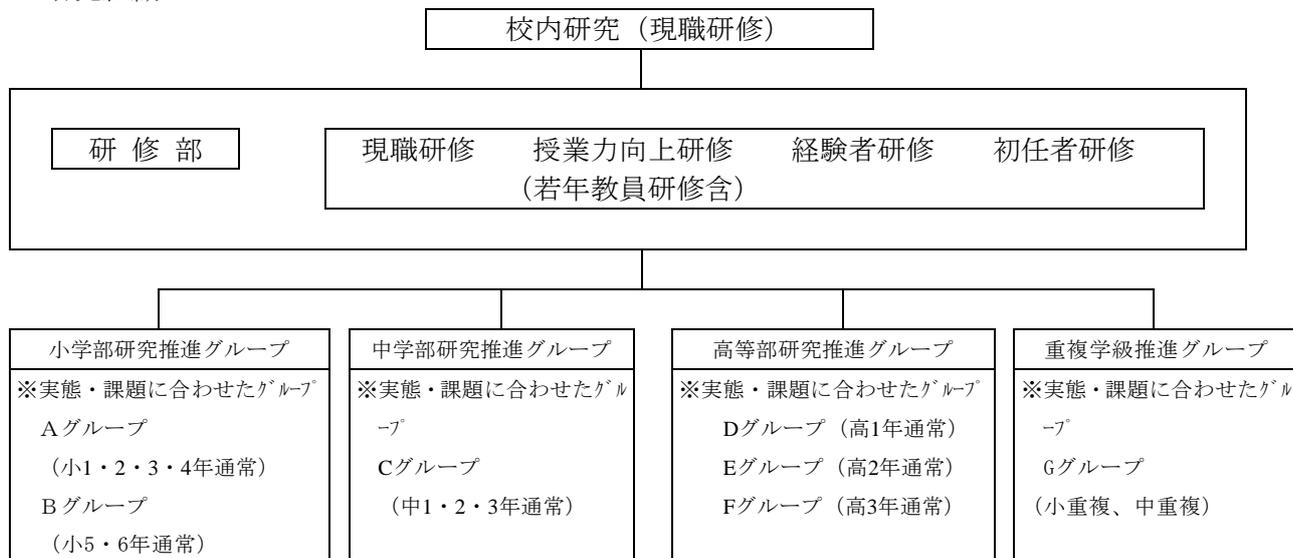
学部ごとに参観者、協議の参加方法を工夫して実施する。

○事例研究：代表授業と類似した単元・題材で、事前または事後の授業研究を通じた考察（グループごとに実施）

※視点シート等を活用した事前・事後検討のあり方を工夫し、TT間の連携と協働をめざす。

- ④ グループごとのまとめから全体研究の成果と課題を焦点化し、さらに次年度のテーマや課題についての研究方法を検討する。

#### 5 研究組織



6 研究計画

今年度は、本テーマ3年次として、以下の計画で推進する。

月	全 体	各研究推進グループ
4	○校内研修全体協議会（4／20） ・テーマの説明 ・本年度の目標について ・校内研究推進グループの編成 ○研修日（4／26）	・校内グループ研究テーマの設定に向けた話し合い (対象学習グループの課題の確認や児童生徒についての情報交換)
5	○相特支研（5／25）	・研究テーマの決定（振り返りの視点の確認・検討） ・研究計画の作成（代表授業・事例研究の計画・決定）
6	・各グループの研究テーマ、研究計画の報告（資料配布） ○研修日（6／14） ○第1回校内研修会（6／21）	・研究計画による実践 代表研究授業（高等部・小学部） ・授業研究の実施・事後研究会
7	○研修日（7／19）	・ワールドカフェのやり方について ・グループ研究で悩むこと
8・9	○中間協議会（8／30） ○研修日（9／6）	・ワールドカフェ形式による協議
10	○第2回校内研修会（10／3）	代表研究授業（重複・中学部） ・授業研究の実施・事後研究会
11	○研修日（11／15）	
12	○研修日（12／7） ○第3回校内研修会（12／18） 外部講師来校	代表研究授業（重複・高等部） ・授業研究の実施・事後研究会、講演会
1	○研修日（1／10）  ・各研究推進グループのまとめ ・研究の成果と課題について ・次年度研修のアンケート調査 ・次年度のテーマ・方向性について	・グループ研究のまとめ (テーマについての成果と課題について)
2	○研修日（2／7） ○校内研修全体協議会（2／27） ・研究のまとめと平成30年度の研究テーマについて	
3	○平成30年度の研修計画等について ・平成29年度研修集録の配布	